２００９年度東海地区協議会第１回研究会Ａグループ討議議事録

（日　時）　２００９年6月２５日（木）　１５：００～１６：２５
（場　所）　豊田工業大学　３４０１教室
（出席者　：　敬称略）
佐野（愛知淑徳）、上屋（岐阜医療科学）、栗本（東海学院）、加藤（中京学院）、清洲（名古屋女子）、加藤（愛知工業）、八鳥（名古屋外国語・名古屋学芸）、筧（名古屋経済）、紅露（南山）、小川（名城）

討議に先立ち、司会を紅露委員（南山）、記録を小川委員（名城）、全体討議の発表者を佐野委員（愛知淑徳）とすることが了承された。
司会の紅露委員（南山）より１０月２８日開催の第２回の研究会において事例報告をしていただける方を各グループの中から１名選出することが本日の運営委員会で決められた旨の報告があった。それについて、Ａグループにおいては、名古屋女子大学様にお願いすることが了承された。
参加者の自己紹介が行われた後、討議に入った。
最初に大串先生の講演についての感想を各参加者が述べた。参加者の多くから本日の講演にも取り上げられたが、若者の読書離れが加速する現実にあって各大学において利用者増加のためにどのような取組みを行っているかを伺いたいとの意見が出された。

図書館活性化の取組みに対して参加者から下記のような事例、意見等が出された。

- 学生を図書館へ来館させるには強制力が必要である。それには教員との連携が必要不可欠である。
- 学生の注意を引く展示、広報により、一度利用した学生が次も来館したいと思えるような環境づくりを行うことが大切である。「ダイエット企画」を催したら日頃図書館に来ない利用者が来館した例も紹介された。
- 学生を書店に連れて行き、本を選書させている取組みが紹介された。
- 図書館で活動を行う学生ボランティアが館内にいると利用者も分からないことが聞きやすくなる。また、学生のボランティア精神を啓発する方策として、景品グッズを活用するのも有効手段であるとの意見が出された。
- 大学院生にも拡大してオリエンテーションを実施したら、レファレンス件数が増加した。また、個人単位でガイダンスを行うことも必要ではないかとの意見が出された。
- 推薦図書を募って、読書コンクールを実施して、優秀作については景品を出している。

● 図書館の入りやすさを追求していくことが大切であるという意見が出され、図書館のゲート付近に休息できる空間を設けただけでも入館者増の効果があった例や逆に図書館の位置が変わったことにより入館者が減ったとの例などが紹介された。

総括として

ハード面として、「場」の問題（図書館が利用しやすい空間にある）、ソフト面として「人」の問題（学生ボランティアの活用等）、「資料」の問題（常に時流を見据え、利用したいものが常にある）という、それら３点をうまく融合することによって利用者に満足のいくサービスが提供されるのではないかとの結論に至った。

なお、最後に本日の講演の感想から

教員に対してのデータベースの講習会開催、利用の手引きを学生と同じように教員にも配付する等して利用の促進を図ることが必要であるとの意見が出された。

以　上